



鵜鮎つうしん

岐阜ダルクニュースレター平成28年冬号(58号)

神父様との最後の年

NPO 岐阜ダルク
施設長 遠山香

今年も残すところ1ヶ月となりました。
本年もダルクへのご理解・ご協力をいただきましてありがとうございました。



理事長の由井神父様が10月30日の早朝、肺炎のため突然天国に旅立ちました。肺癌を患い、検査のため入院したばかりのことでした。亡くなる10日前にお見舞いに行ったのが、神父様の笑顔を見た最後の日となってしまいました。

今年の2月にスタッフのけんさんが亡くなり、続いて神父様。大きな支え手がいなくなってしまう本当に途方に暮れる思いです。

14年前、岐阜ダルク設立に向けて当時美濃加茂カトリック教会におられた由井神父様を訪ねました。「後援会を作りたい。後援会長になってもらえませんか？」とお願いすると、1度目は断られましたが、けんさんと二人で教会を二度目に訪ね、けんさんが「神父様。神のみ旨ですよ。」と言うと、「いやあ、わかりました」と引き受けて下さった時の笑顔は忘れません。

平成21年にNPO法人を取得し、後援会長から理事長になっていただきました。美濃加茂カトリック教会から名古屋の布池カトリック教会に変わられてからも公私ともに大変支えていただきました。

5年前に聖書の勉強をするため、毎週神父様の所に通いました。ダルクの運動プログラムや岐阜から名古屋までの運転で疲れているせいか、勉強が始まると毎回眠たくなってうとうとしてしまいましたが、神父様自身の話をいろいろ話して下さることで目が覚めることも度々でした。毎回そのような態度だったのに神父様はいつも私に合わせて下さって、とても楽しい時間を過ごしたことが懐かしく思い出されます。

寂しくて仕方ありませんが、これからは神父様が天国で私達ダルクの活動を見守って下さると思います。これからも精一杯活動していきますので、どうか皆さまのお力に支えていただきたくお願いいたします。

感謝のうちに

仲間の体験談・ダルク職員になって

名古屋ダルク 職員 倉地光一

日に日に寒さが募り冷たい風が吹くたびに岐阜での生活を思い出します
が早いもので名古屋ダルクで働きだし、1年が経とうとしています。

昨年の10月頃、自分の人生について自分はどう生きていきたいのか真剣に考えるようになりました。岐阜でそのまま生きていくのか、それとも違う道を選ぶのか、ミーティングで自分の棚卸をする日々を過ごし、色々な思いや思惑の中、お世話になった岐阜ダルクのカオリさんに今後の自分の進む道について話をしました。カオリさんは自分のだした答えについて反対などせず逆に背中を押してくれました。ハイヤーパワーに与えられたのは名古屋ダルクで職員として働く道でした。



今年の1月に自分の回復が始まった場所、名古屋ダルクに戻ってきました。しかし、岐阜ダルクで長い間プログラムをやってきた自分は名古屋ダルクとのプログラムの違いを受け入れることが当初とても大変なことでした。職員として仕事を覚えていく中で心の中では「岐阜ではこのやり方はしなかった」といつも葛藤があり、自分がやってきたやり方を突き通したくなりました。時には自分のやり方を突き通したこともありました。そのたびに問題が起こり、上司からは「自分の考えを使わずにゆだねてみる」と言われました。

場所が変わればやり方も変わるの当然でそのことを受け入れきれない自分がいることをハッと気づかされました。自分がやってきた12ステッププログラムを使えていない自分にも気づきすぐにスポンサーシップの中で話を聞いてもらい受け入れるためにミーティングで棚卸をしました。すぐに問題解決とはいきませんでした、プログラムを通して受け入れる落ち着きを取り戻していききました。問題を一つ解決しましたが、また別の問題が出てきました。自分の欠点である自己肯定感の低さからくる他者の評価を得るための行動が止まらなくなりました。まだろくに仕事を覚えていないにもかかわらずできない仕事も自分で何とか処理しようと暴走してしまったり、結果余計なトラブルを起こしてしまったり、スムーズにいくはずの仕事も余計な問題を起してしまいうまくいかずしてしまいうまくいかなかったり、指摘を何度も受けました。そのたびに罪悪感に襲われ自分を責めることを何度も繰り返しました。指摘されることを自分が責められていると受け取ってしまう自分の受け取り方にも問題があることに気づき、自分の欠点や受け取り方の問題もプログラムを通して修正していくことを行っていました。

一難去ってまた一難次は名古屋ダルクを利用している仲間に対して職員として伝えなければならない嫌なことを伝えることができない自分の問題が大きいのしかかってきました。言わなければならないことも嫌われたくない思いや伝えた後の相手の反応を恐れて嫌なことを伝えることから逃げる自分。見て見ぬふりをすることもありました。その結果伝えなかったことが原因で仲間どうしでトラブルが起こることもありました。嫌なことから逃げるため別の職員に伝えてもらうこともあり、自分の問題から逃げていることに具合も悪くなりました。結局問題解決をするには自分の内面の弱さと向き合う必要があることにも気づきました。

傷つくことを極端に恐れている自分、嫌われることを恐れている自分、ぶつかることを恐れて仲間との間に壁を作っている自分。色々なことを恐れている自分と向き合うことが問題解決には必要なことでした。自分と向き合う作業は本当に嫌なことでしたが、問題解決に向けて自分のプログラムを取り組み続けることで、言えたり言えなかったり、言えるようになって人も人が変われば言えなくなったりを繰り返しながら一歩ずつ前に進んでいき、伝えられない問題も解決に向けて進んでいきました。

社会で働いていた時では気づかなかったことも仲間の中で生きていくことでたくさんの気づきを得ることができました。ダルクで働くことは本当に辛いことや苦しいことが沢山あります。ですがそれ以上に喜びもあります。自分の成長が本当に実感できる場所だし、何といても仲間たちが成長していく姿を間近で見ることが出来ます。それが何よりの贈り物です。今後もきっと今以上の嫌なことが待っていると思いますが、ダルクで働くことを続けていきますのでよろしくお祈りします。

仲間へのインタビュー

前号に続き、仲間たちに聞きました。一人ひとり違いもありますが、薬を使ってどうにもならなくなったのは同じで、今は皆が共に回復に向かう仲間です！



1 ダルクに来てどのくらい経ちますか？

A) 最初香川ダルクにつながったのが平成26年10月で、それから岐阜に来て1年4ヶ月経ちます。

B) 1年1ヶ月。

2 これまでに、どんな薬を使ってきましたか？

A) シンナー、覚せい剤、大麻、睡眠薬、安定剤、せき止め、ガスを使ったことがあります。最終的には、睡眠薬、安定剤、咳止めにはまりました。

B) 酒、危険ドラッグ、マリファナ、覚醒剤、チョコ（注・大麻樹脂）、MDMA。

3 その薬を使い始めたのはどうしてですか？

A) 最初13歳でシンナーを使ったのは、先輩から渡されて興味があったからです。それからいろんな薬を使って、16歳の時人からもらった処方薬を飲んだら、フワフワして楽しかったので、自分で使うようになりました。

B) 酒は先輩にすすめられて飲んだ。違法薬物は、出会い系サイトで出会った人にすすめられて使った。自暴自棄になっていて、何をしてもいいやと思った。

4 どの位の期間薬を使ってきましたか？薬を使ってきてどうなりましたか？

A) 13歳の時から29歳で実家に放火して捕まるまでの13年間。毎日のように処方薬とせき止めを大量に飲むようになりました。それで何もやる気がなくなって、怒り以外何も感じなくなりました。

B) 13年間使いつづけた。外へ出れなくなった。善悪の判断をしても行動がとれない。性格がさらに歪んだ。損得勘定で行動するようになった。妊娠中さえ使った。

5 ダルクに来たきっかけは何ですか？ダルクを知ったのは、いつどこで？

A) 捕まる直前に親から聞いて知りました。捕まった後、多分親が連絡を取ってくれたようで、香川ダルクの施設長が面会に来てくれて、親もなくなってくれなかった身元引受人になってくれたから、仕方なく出所後入寮しました。

B) ダルクは16歳の時TVの報道で知った。2回目のダルクだけど、6年前は弁護士で紹介で、ダルクへ来るきっかけになった。今回は、6年前につながった時は続かなくて、自分のやり方でやろうとしたが、どうにもならなくなり、刑務所の中でやっと決心がついた。

6 ダルクでは何をしていますか？

A) 掃除、朝のミーティング、運動、NAに行くと言うことを毎日やっています。最近になって、ハローワークでバイトを探し始めました。

B) ミーティング、運動、NAに行っていますが、人との関わりの中で、他人と自分の問題を分けて考える練習をしています。自立と自律です。

7 ダルクに来て、自分はどう変わりましたか？いつ頃から変わり始めましたか？

A) 仲間からは笑うようになったと言われる。岐阜に来て半年位経ってから、そう言われるようになりました。

B) 嫌な事をするようになったし、あまり嫌だと思わなくなった。来て3~4ヶ月経ってから変わり始めた。よく相談するようになった。生きる上での選択肢を広く考えるようになった。

8 最近、ダルクで意識して取り組んでいることはありますか？それは何ですか？

A) たくさんあります。例えば、自分の事は自分です。相談する。仲間と会話をする。とにかく正直になってみることなどです。

B) ミーティングで正直に話す。自分の限界値を決めずプログラムに取り組む。他人と自分を比べた時はミーティングで話す。自分の意志で動こうとした時は、その前に相談する。ステップ4をして自分を知る。これをやってみたら良かったよと言われた事を受け入れてやってみる。

9 これからどんな風になっていきたいですか？

A) 自立した大人になりたいです。

B) 自分に嘘をつかないで、自分を開放してあげたい。狭い視野の中で自分を縛り付けない生き方をしたい。薬をやめつづけたい。生きていくのが楽しいと思える選択肢があることを、もっともって体験したい。



活動紹介

10月

- 1 薬物電話相談日
- 2 NA・ASC会議参加
- 4 笠松刑務所薬物離脱指導 6 ヨーガ
- 8 京都ダルクフォーラム参加、薬物電話相談日
- 9 ルーテル大垣教会にて活動紹介、岐阜ダルク家族会
- 12 薬物電話相談日 15 薬物電話相談日
- 16 カトリック岐阜教会バザーボランティア
- 17 ダルク後援会
- 18 各務原病院ケア会議
- 19 地域支援連絡会議、笠松刑務所薬物離脱指導
- 22 岐阜ダルクチャリティーコンサート
- 23 薬物電話相談日
- 23 江南カトリック教会にて活動紹介
- 岐阜ダルク家族会
- 24 名古屋地方裁判所情状証人出廷
- 25 レクリエーション(白川郷)
- 26 笠松刑務所薬物離脱指導
- 27 岐阜県立多治見西高等学校講演、ヨーガ
- 28 岐阜県立多治見西高等学校講演、ヨーガ
- 28 岐阜県立多治見西高等学校講演、ヨーガ
- 29 フラワーセラピー

11月

- 1 笠松刑務所薬物離脱指導
- 5 NAハロウィンイベント参加
- 薬物電話相談日
- 6 掛妻キリスト教会チャペルコンサート参加
- 9 薬物電話相談日 10 ヨーガ
- 12 ルーテル岐阜教会バザー準備手伝い
- 薬物電話相談日
- 13 ルーテル岐阜教会バザー、岐阜ダルク家族会
- JCCA参加(13日~15日まで)
- 16 笠松刑務所薬物離脱指導
- 17 ライオンズクラブ講話
- 依存症に関する家族教室講話
- 19 駿河ダルクフォーラム参加、薬物電話相談日
- 20 ルーテル岐阜教会にて活動紹介
- 22 ダルク後援会
- 23 レクリエーション(焼肉キング) 24 ヨーガ
- 26 岐阜ダルクミニフォーラム(in各務原)
- 薬物電話相談日
- 27 岐阜ダルク家族会、フラワーセラピー
- 28 ニュースレター発送作業

11/5 NAハロウィンイベント



スタッフと仲間と全員でゴスペラーズの「ひとり」を歌いました。今回のイベントも、参加費と交通費は自分たちで貯めました。みんな、思い思いの仮装をして楽しみました。

11/17 ライオンズクラブ講話



薬物乱用防止にも取り組んでいる、岐阜南ライオンズクラブと羽島ライオンズクラブの10名の皆様に薬物依存についての体験談や活動紹介をしました。興味のある話だと言ってくれました。

10/25 レクリエーション(白川郷)



スタッフを含め8人で2時間30分かけて白川郷へ…。朝からお弁当を作って行きましたが、あいにくの雨で傘をさしての見学となりました。薬を使っている時に行っていた夜の街ではなく、世界遺産を見たり、山を歩いたりしました。帰りは、雨が上がって、大きな虹が出ました。とてもきれいでみんな感激!!

10/22 チャリティーコンサート



今年も、カトリック多治見教会をおかりして、演奏者の方の協力のもと、無事チャリティーコンサートを開くことができました。チラシやチケットを置いて下さった各施設・教会の皆様、支援者の方、教会まで足を運んで下さった皆様、心より感謝いたします。チケット売り上げ：¥126,000円 会場募金：¥17,611円 ご協力を頂きまして本当にありがとうございました。

10/27 岐阜県立多治見西高等学校講演



ものすごい人の目!! 本当にいい経験させてもらって感謝!!



普通なら絶対に言えない様な薬物を使用していた時の事を生徒さん達の前で現在入寮中の仲間も話をしました。

みなさんおひさしぶりだわん。ステッです。さむくなってきたわん。ワォ〜

今年もバザーのボランティアとして参加させて頂きました。

教会の皆様には、いつも本当にお世話になっています。売上げの中から寄付金を頂いたり、お米を頂きました。いつも本当にありがとうございます。

11/12 ルーテル岐阜教会バザー



服の販売。

10/16 カトリック岐阜教会バザー



焼きそば製作中。

カレーの番をしています。

活動予定

12月

- 1 ヨーガ
- 3 香川ダルクフォーラム参加、薬物電話相談日
- 4 ナラノンオープンスピーカー参加
- 7 笠松刑務所薬物離脱指導
- 10 NAオープンスピーカーズミーティング参加
- 薬物電話相談日
- 11 岐阜ダルク家族会
- 13 各務原病院依存症研修会講話
- 14 薬物電話相談日 22 ヨーガ
- 24 薬物電話相談日
- 25 ルーテル岐阜教会クリスマス会参加
- 岐阜ダルク家族会
- 27 各務原病院ケア会議
- 26~27 岐阜ダルク忘年会(下呂温泉)



- 7 薬物電話相談日
- 8 岐阜ダルク家族会
- 11 薬物電話相談日
- 12 ヨーガ
- 14 薬物電話相談日
- 21 薬物電話相談日
- 22 岐阜ダルク家族会
- 26 ヨーガ
- 28 薬物電話相談日

女性ハウスだより

スタッフ 勇 陽子

紅葉がとてもきれいな季節になりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。女性ハウスの仲間はそれぞれ悩みながら、でも元気にリハビリしています。

現在、新しく加わった仲間が2名で入所は5名、通所は1名、合計6名になりにぎやかになりました。

1年以上リハビリを継続している仲間が数名いて、少しずつステップアップし、プログラムの内容も変わっていく中で、これからどのようになっていくのか考えていると楽しみになります。一人の仲間は、アルバイトを探しに行くこと、もう一人の仲間は、勉強をやること、もう一人の仲間は自分のプログラムを今日一日ベストを尽くすことを徹底してやっています。

依存症の治療にはとても時間がかかりますが、治療をすれば良くなる病気です。病気の治療に専念できるようなサポートが出来るといいなと思っています。

いつも私たちの活動を見守っていただきありがとうございます。これからもよろしくお願ひ致します。感謝の内に



(まんが作画 まさひろ)

Step houseだより

スタッフ 山田興久

今年も残りわずかとなってきましたが、岐阜ダルクの仲間達は、毎日変わらないプログラムをやっています。

実際に入って分かったのですが、刑務所の中には驚くほどたくさんの依存症者がいます。そこから沢山の手紙をもらい、ダルクのプログラムが効いた自分の体験を書いて返事をしますが、手紙のやり取りを続けた後でも実際につながってくる人が少ないのは残念な事実です。

しかし先日、刑務所から出所してきたばかりと言う人と会って話をしました。まだ仮釈放中で更生保護施設にいた人ですが、その施設を出ることとなり、ダルクでプログラムができないかと相談があったのです。

「これまで5回も刑務所に行ったけど、もう本当に薬を止めたい」と言っていましたから、僕は自分の経験を話しました。2回刑務所に行ったけれど、ダルクのプログラムにつながったら、出所して3年になる今も薬を使わずに社会に居ること。いろいろならわれから解放されて楽に生きられるようになってきたこと。薬を使わないでも健康的な喜びを手にすることができたこと。

うなずきながら聞いていて、「やってみたい」と言うので、1年位は働かずに毎日休むことなくプログラムを続ければ、自分を変えて薬を使わずに生きていけるようになる、今いる仲間達も家族や友達とも一切会わずに毎日プログラムをやっていると伝えて、所用の電話をかけるために一旦席を外しました。

部屋に戻って驚きました。「やっぱり止める」と言うのです。「そんなことだったら、もう一度刑務所に戻った方が良くないじゃないですか」と。

結局はそういうことかと思いながら、ステップハウスに戻りました。ちょうど運動プログラムから帰った仲間達がいました。今日は10キロ走った、気持ちよかったと言い合う仲間達。プログラムにつながるのは奇跡のような事です。奇跡を手にした仲間達が回復に向かって確実に進んでいけるよう祈る毎日です。

由井神父様、また逢う日まで

岐阜ダルク後援会

会長 齋藤幸二



由井神父が天に召されました。私は神父にお会いする機会は数回しかなかったのですが、最初にお会いしたのは長住町のダルクでした。お生まれが長野県の小川町という山の中であること、御嵩町の産業廃棄物処理場建設への反対活動の代表をしていることを話してくださいました。問題は1996年に当時の柳川町長が何者かに襲撃されたことで大きなニュースになりました。「お前には死んでも悲しむ家族がないのだからやれ、ということでしょう」と冗談半分で話しておられました。私たちプロテスタントの牧師は結婚しますが、「独身だからできることもあるんだ」と思われました。その後岐阜ダルクのフォーラムや女性ハウスの開所式、ステップハウスの開所式でお会いしました由井神父はいつも飄々としていて、かたひじはらない態度で、出会う人を和ませる不思議な雰囲気をもっておられました神と人とに仕えてこの世の歩みを終えた由井神父に「お疲れ様でした。また会う日まで」と言いたいと思います。



ご支援・ご協力をいただき心から御礼申し上げます

献金者名(平成28年9月8日～11月10日)敬称略

江南カトリック教会の皆様 池田時造 デイヒロキ 北谷雅春 林顕秀 中西東峰 岡村晴美 阿部賢彦 田口大輔 伊藤直美 小田泉 光楽英生 野々垣多美子 永嶋恵美 石川恭二 市岡多賀賜 村中和代 枝木敬子 中道美保子 岐阜山県保護区保護司会 坂本照美 中堀義広 鈴木信行 岐阜県保護司会連合会 木下容子 鎌田憲子 岐阜市更生保護女性会・細江由喜子 カトリック女性の会樹の会 ムラマツヒロユキ サルビア株式会社 養清興業株式会社 (宗)カトリック神言修道会・多治見教会 弁護士・河合良房 弁護士・山本亮 篠井敏明 若岡ます美 聖泉キリスト教会 加茂保護区保護司会 勇昭代 山田慶子 家田重晴 岐阜キリスト教会 カトリック岐阜教会 尾関貴代美 亀田公子 飯尾良英 水野滋子 桐友会・堀敬太郎 匿名者多数

献品者名(平成28年9月8日～11月10日)敬称略

木下容子 岐阜カトリック教会 柳原清盛 小西和子 匿名者多数

※お名前の記載につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前の誤字・脱字または記載漏れなどございましたら、誠に申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、恐れいりますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。

※就労支援のため、Word、Excelの操作を指導して下さるボランティアの方を募集しています。どうかお力添えください。

※岐阜ダルクでは岐阜ダルク及び女性ハウスの2施設の地代家賃、水道光熱費、専任スタッフの人件費等、毎月一定の固定費がかかる一方、「中間施設」の性格上、きわめて財務基盤が不安定で、皆様方のご寄付が欠かせません。引き続きご理解とお力添えをお願い申し上げます。

岐阜ダルク 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

※Step houseの新しい電話をひきました。TEL:058-201-3555

※バザーや地域のフリーマーケットへの参加を定期的に行っていきます。

ご家庭で眠っている新品のタオルや家庭用品や衣類などがありましたら献品のご協力をお願い申し上げます。たくさんありましたらダルクから近郊の方でしたら取りに伺わせていただきますのでご連絡下さい。(058-251-6922)

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク
編集担当 岐阜ダルク後援会 齋藤幸二 鈴木輝一郎
〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX:058-251-6922
Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp
ホームページ: <http://gifu-darc.sakura.ne.jp/>
ダルク日記『今日もぐるぐる』: <http://darcblog.sblo.jp/>
2016年 岐阜ダルクニュースレター平成28年冬号 (No.58)
定価 1部 200円
編集責任者 遠山 香
発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター

